

国語科学習指導案

1 単元名 伝えたいことを短歌にしよう

2 単元設定の理由

(1) 生徒の実態

事前アンケートで、「(作文などを)書くことが好きですか。」という問いに対して「好き」、「どちらかと言えば好き」と答えた生徒の割合は25%だった。徳島県学力ステップアップテストの記述式問題で、無解答が目立ったことから、書くことに苦手意識をもっている生徒が少なくないことが窺える。

しかし、短歌に関しては、市文化協会の文芸誌に応募していることもあり、生徒にとって親しみやすい日本の伝統的言語文化の一つとなっている。今回の学習では、身近なものを題材に短歌を詠むことで、書く楽しさを味わわせたい。自分たちが小学生のとき、中学校ではどのようなことが行われているか「わからなかった」、「あまり知らなかった」と96%の生徒が回答したことから、中学校生活に不安を感じている小学生が多いと考えられる。校区内の小学6年生が中学校生活に親近感をもてるような、中学校生活の一場面を題材にした短歌を創作することで、三十一音の美しい響きを感じ取ることができるのではないかと考える。

(2) 単元観

「短歌に親しむ」は、歌人の栗木京子氏による解説文である。近代短歌3首と現代短歌2首それぞれの魅力や表現の工夫とともに、季節感から生命、人の生き方、果ては人類の未来までを歌う短歌の広がり語られている。また、「短歌を味わう」では、6人の歌人の個性豊かな作品が紹介されている。生徒が自分の心に響く作品を見だし、読み味わうことをねらいとしている。これらの教材によって、伝統的な言語文化の表現の豊かさを体験しつつ、短歌の多様な魅力を感じ取り、自分の知識や経験と結び付けながら短歌を味わわせたい。

そして、短歌を創作することで、自己や他者の心情を捉える感性を磨き、言語感覚を豊かにすることができると考える。伝統的なリズムを体感させ、言葉の美しさを感じ取る感性を育てるとともに、自らの心情を豊かに表現する力を育み、見慣れた景色の中から十人十色の短歌が生まれる楽しさや喜びを実感させたい。

(3) 指導上の工夫

① 主体的に取り組める活動の設定

単元の最初に、校区内の小学6年生に伝えたい中学校生活の一場面を短歌に詠むという活動目標を意識させる。本校では毎年10月に校区内の小学生、保護者、小学校教職員を対象に「〇中まるみえ体験入学」が行われている。「〇中まるみえ体験入学」は、体験授業や部活動見学などを通して、中学校生活に対する不安を和らげるとともに、中学校生活への意欲を高めてもらうことを目的としている。そこで、校区内の小学6年生に、中学校生活について知ってもらうために短歌を作るという場を設けた。

② 活動が身近に感じられる動画の視聴

今 SNS を中心に短歌が若者に広がっており、令和の短歌ブームが起きていると言われている。ニュースでも取り上げられた短歌ブームについて動画を視聴することで、生徒には短歌をより身近なものと感じてほしい。

3 単元の見込み

- (1) 抽象的な概念を表す語句の量を増すと同時に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)エ
- (2) 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (3) 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
- (4) 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ
- (5) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4 本単元における言語活動

感じたことや想像したことを短歌にする。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ウ)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (C(1)エ)	①「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。 (C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (C(1)オ) ③「書くこと」において、表現の効果を考え、描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 (B(1)ウ)	①進んで短歌の構成や表現の効果について考え、今までの学習を生かして短歌を創作しようとしている。

6 指導と評価の計画（全5時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1・2	1 単元の目標を確認し、学習の見通しをもつ。 2 「短歌に親しむ」を読み、短歌の特徴についてまとめる。 3 5首の短歌について、詠まれた情景や心情を捉える。 4 「短歌を味わう」の6首の大意を捉え、観点に沿って鑑賞する。	○本単元では、校区内の小学6年生に伝えたい中学校生活の一場面を短歌に詠むことを知らせ、学習の見通しをもたせる。 ○冒頭の段落に書かれている内容を簡潔にまとめさせる。 ○意味の切れ目に注意して朗読させる。 ○本文中の筆者のものの見方や感じ方がよく表れている語句や表現に着目させる。 ○自分の経験などと結び付けて感想を書かせる。感想を交流させ、読み手によって感じ方が違うことに気付かせる。 ○短歌を読み味わう観点を示す。（語句、情景や心情、五感で感じるもの、表現の工夫） ○言葉の選び方や順序にどのような特徴があるかに着目して比較させる。 ○鑑賞したことを踏まえて朗読させる。	〔思考・判断・表現〕② ワークシート ・短歌を読んで理解したことや考えたことを自分の知識や経験と結び付けて感想を書いているかを確認する。 〔思考・判断・表現〕① ワークシート ・観点を明確にして短歌を比較し、短歌の構成や表現の効果について考えているかを確認する。
3・4	1 学習の目標を確認し、見通しをもつ。 2 短歌ブームについて動画を視聴する。 3 題材を決め、決めた題材について考え	○前時までに学習したことを生かして、校区内の小学6年生に伝えたい中学校生活の一場面を短歌に詠むことを確認する。 ○ニュースにも取り上げられた短歌ブームについて、動画を視聴させる。 ○SNSを中心にZ世代に短歌ブームが起きていることを確認し、短歌創作に取り組みやすくさせる。 ○Z世代が創作した短歌を紹介する。 ○授業、部活動、行事、登下校時の景色など中学校生活の様子が	〔知識・技能〕① ワークシート

	を広げる。	<p>伝わる出来事や場面を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マッピングで考えを広げさせる。 ○視覚だけでなく、聴覚や嗅覚を使ってイメージが膨らむようにさせる。 ○短歌で表現しようとする出来事や場面を決め、短い文章にまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現したい情景や心情が伝わる言葉を選んで、まとめているかを確認する。
	4 短歌を創作する。	<ul style="list-style-type: none"> ○短い文章にまとめたものを五・七・五・七・七の定型にさせる。 ○表現したいことがきちんと伝わるように、よりふさわしい言葉に言い換えたり、言葉の順序を入れ替えたりさせる。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p>観察・ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで短歌の構成や表現の効果について考え、今までの学習を生かして短歌を創作しようとしているかを確認する。
5 (本時)	<p>1 創作した短歌を鑑賞する。</p> <p>2 単元の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○創作した短歌を Teams に投稿させる。 ○友達の短歌を鑑賞し、コメントを互いに送らせる。 ○鑑賞する観点を事前に示しておく。 ○コメントは具体的に書かせる。 ○学んだことを振り返らせる。 	<p>[思考・判断・表現] ③</p> <p>ワークシート・作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の効果を考えて、自分の思いが伝わる短歌になるように工夫しているかを確認する。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

表現の効果を考えて、表現したい情景や心情が伝わるような短歌を作ることができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 本時の目標を確認し、見通しをもつ。	○校区内の小学6年生に伝えたい中学校生活の一場面を短歌にしたものを鑑賞することを伝える。	
2 創作した短歌をグループで鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の短歌の鑑賞文を書かせる。 ○創作した短歌を Teams に投稿させる。 ○鑑賞する観点を事前に示しておく。 ○3～4人のグループを作る。 ○友達の作品にコメントを書かせる。コメントは具体的に書かせる。 	<p>[思考・判断・表現] ③</p> <p>ワークシート・作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の効果を考えて、自分の思いが伝わる短歌になるように工夫しているかを確認する。
3 創作した短歌を全体で鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の違う短歌を取り上げる。 ○どのような出来事や場面を詠んだものか、どのような工夫をしているかを考えさせる。 ○作成した生徒には、どのような工夫をしたかを発表させる。 	
4 単元の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○今回の単元で学んだことや身に付いたことを記述させる。 ○同じ出来事や場면을題材にしても、言葉を精選することで十人十色の短歌が生まれ、その多様性が短歌の魅力だということを確認する。 	

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・表現したい出来事や場面を具体的に描写し、読み手を意識して鑑賞の観点に沿って自分の短歌の工夫点を書いている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	・短歌にした出来事や場面の5W1Hを想起させ、最も伝えたいことは何かを考えさせる。「短歌に親しむ」の解説文を参考にさせる。